

埋蔵文化財調査センター50周年

高槻の遺跡発掘 半世紀の歩み

ID 004651

市内の遺跡（埋蔵文化財）の発掘調査の拠点として、文化財保護を担ってきた「埋文センター」こと埋蔵文化財調査センター。開設50周年を迎えた今年、これまでの調査成果からその役割を振り返ります。

問合せ 埋蔵文化財調査センター／Tel694-7562



「青龍三年」銘方格規矩鏡
(安満宮山古墳出土、国指定重要文化財)

遺跡の調査・保存を担う

全国初の拠点

高度経済成長期の昭和40年代、宅地造成などの開発ラッシュが続き、遺跡の発掘調査、出土品や記録の整理・保管を組織的に進める必要がありました。

こうした状況の中、調査体制が整いつつあった市では、昭和50年に全国で初めて遺跡の調査と保存を行う拠点として、現在の南平台五丁目に埋文センターを開設しました。



竣工当時の埋文センター（昭和50年）



出土品が入ったコンテナケースがびっしり並ぶ収蔵庫

出土品の調査・保存専用の

機能的な設備の数々

埋文センターは、出土品の調査・整理・保存を効率的に行うために工夫されています。広く設けられた収蔵スペースはもちろん、出土品の洗浄や接合、復元などを行う整理室や製図室、大きな出土品も撮影できるよう天井が高く設計された撮影部屋、木製品を保存するための大型の水槽など、専門的な設備が整っています。

遺跡が憩いの空間に

文化財を活用したまちづくり

埋文センターでは、発掘調査や出土品の整理・保管だけでなく、調査・研究に基づいた出土品の展示や紹介などで成果を公表しています。

また、今城塚古墳や安満遺跡を歴史が体感できる史跡公園として整備し、文化財を生かしたまちづくりにもつなげています。



調査成果に基づき復元した埴輪群（今城塚古墳公園）

50年間の主な調査成果

※カッコ内は調査開始時期

高槻城跡（昭和50年～）



高槻城跡の最初の発掘調査は今から50年前。この調査では、本丸の石垣を支える基礎の構造から、江戸時代の土木技術の高さが明らかになった。後に武家屋敷跡からは将棋の駒も出土している。

新池遺跡（昭和63年～）

埴輪（はにわ）窯18基、埴輪づくりの工房3棟などが見つかった全国でも有数の埴輪製作遺跡。5世紀中頃から約100年間にわたり生産が行われた。大王墓の埴輪づくりの様子が分かる全国唯一の遺跡。



今城塚古墳（平成8年～）



淀川流域最大級の前方後円墳で真の継体大王（天皇）の墓と考えられている。日本最大の家形埴輪をはじめ、人や動物の埴輪など200点以上が出土した。他の陵墓とは違い、唯一自由に立ち入ることができる。

つげやま 闘鶏山古墳（平成14年～）

全国的にも珍しい未盗掘の石室が2基見つかった。内部には、副葬品の青銅鏡や武器、石製の装飾品などの他、人骨がそのまま残っていることが確認され、古墳の埋葬儀礼を知る重要な鍵となっている。



安満遺跡（平成20年～）



弥生時代の人々が暮らした居住域、水田などが広がっていた生産域、100基以上の墓が確認された墓域の3要素がそろった貴重な遺跡。稲作文化をはじめとする弥生人の暮らしが明らかになった。

芥川城跡（令和2年～）

戦国時代の摂津国最大級の山城跡。織田信長が京都に入る前に、近畿中心部を支配していた三好長慶などの居城として有名。曲輪（くるわ）や土塁、石垣などの山城の遺構が良好に残っている。



出土品が歴史館に 展示されるまで

土器や埴輪などの出土品は、発掘調査の後、さまざまな作業を経て歴史館などに展示されます。これらの作業は全て埋文センターで行っています。今回は、普段目にすることがない埋文センターでの作業の様子を紹介します。

1. 事前調査

遺跡の範囲内で工事などが計画されると、事前に発掘調査を行う必要があります。計画地周辺の過去の調査記録を調べて、発掘調査の準備を進めます。



試し掘りをして、計画地の遺跡の深さや遺構の密集度合いなどを調べることもあります。



私がお伝えします



埋文センター所長
今西康宏さん

2. 発掘調査



遺跡の深さまでは機械で掘り進めますが、細部は土の違いを確認しながら人の手で。左の写真では地面から深さ1.5m程度掘り下げています。

発掘調査では、地層の重なりや土の色・質の違いから、時代の新旧などを見分けます



3. 遺構の記録



発掘調査では、昔の人が造った建物などの跡が見つかります。そういった遺構は、写真や測量図面で記録を残します。

4. 出土品の洗浄・復元



出土品は、ブラシなどで、表面に付いた泥や汚れを優しく丁寧に落とします。出土品は遺跡の年代や内容を知るための大切な手がかりです。



復元の前に破片の一つ一つに出土した地点や日付などのデータを記入。これらをつなぎ合わせ、全体像を明らかにします。足りない部分は石こうなどで補います。

5. 出土品の記録



洗浄を終えた出土品は、図面や写真などで記録します。これらの記録は、遺構の記録とともに報告書にまとめます。

6. 保管・公開

記録を終えた出土品は、収蔵庫で保管します。その後の調査・研究により明らかになった成果をもとに、展示などで市民の皆さんに公開します。



公開するのは
えりすぐりの
優品です

この出来事知ってる？覚えてる？
全国から注目を集めた高槻

①現地説明会に2,800人超



古曽部・芝谷遺跡は、大規模な高地性集落の調査としてマスメディアで大きく報道された。平成4年の現地説明会には、全国から多くの人が訪れた。

古曽部・芝谷遺跡

弥生時代後期の遺跡。丘の斜面に環濠が巡らされていて、90棟以上の竪穴住居跡や土器、鉄器などが見つかった

②卑弥呼の鏡が高槻に？



安満宮山古墳からは、国内最古の年号鏡と三角縁神獣鏡が出土。魏（ぎ。現在の中国）が卑弥呼に与えたものではないかと全国から注目を集めた。

安満宮山古墳

3世紀後半頃の古墳。現在は復元整備し、ガラス越しに埋葬状況を見ることが出来る

次ページでは10/18(土)から開催する企画展の見どころを紹介



今城塚古代歴史館で**企画展**

発掘調査を振り返る

これまでに市内で行われてきた半世紀にわたる発掘調査を年代ごとに紹介します。ここでは、代表的な遺跡とその出土品や見どころを皆さんにお届けします。

問合 今城塚古代歴史館／Tel682-0820

ID 156816



石包丁（安満遺跡）

全国初の全面発掘

1.

弁天山古墳群

南平台の弁天山古墳群は、岡本山古墳、弁天山古墳、弁天山C1号墳の三つを中心とした古墳群です。中でも弁天山C1号墳だけは、本格的な発掘調査が行われ、全面発掘した前方後円墳として全国初の事例になりました。

青銅鏡の他、矢じりや石製の腕輪などを展示します。



石製の腕輪と銅製矢じり
（弁天山C1号墳）

関西最大規模

2.

郡家今城遺跡

三島高校周辺に広がる郡家今城遺跡は、関西最大規模の旧石器時代の遺跡です。狩猟に使った石器、調理に用いた焼け石などが見つかリ、出土品は府の有形文化財に指定されています。



ナイフ形石器など

弥生人の営みが見えてくる

3.

安満遺跡

安満遺跡からは大量の弥生土器の他、農耕具や石包丁などの木製品、石製品が出土しました。日々の暮らしを営んだ住居、食生活を支えた水田、家族ごとの墓という三つの要素が見つかった同遺跡は、米

づくりが始まった弥生時代の集落と当時の暮らしぶりを伝えてくれます。



弥生土器

最新成果の注目遺跡

4.

高樋古墳群

土室町で見つかった5世紀後半の古墳群です。周辺には、古墳時代中頃から三島の開発に関わった首長の墓域「土室古墳群」があり、高樋（たかひ）古墳群もその一つです。

今回の企画展では、新たに復元した初公開の家形埴輪を展示。最新の成果をぜひ自分の目で。



家形埴輪

今城塚古代歴史館企画展 発掘調査の半世紀

日時 10/18(土)～来年2/11(祝)
10:00～17:00

(原則月曜は休館。入場は16:30まで)

場所 今城塚古代歴史館
料金 無料
問合 Tel682-0820